



生活指導通信

No. 1

はじめに

平素より本校の教育活動に深いご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。先日の全校保護者会では、多くの保護者の方にご出席いただきありがとうございました。今年度も生徒一人一人が安心して学校生活を送り、心豊かに成長していけるような環境作りをしてまいります。その取組の一つとして今年度も生活指導通信を月に一度、発行します。昨年度はプリントを配布していましたが、今年度からはホームページにも掲載します。内容は学校生活の様子、保護者の皆様に協力をしていただきたいこと、思春期のお子様と関わる上で役に立つ情報などです。月末に発行しますので、ぜひご確認いただき、ご家庭でも様々なことを話題にいただけたら幸いです。

さて、保護者会でも申し上げましたが、本年度はこれまで以上に「安心して学び、成長できる環境づくり」を目標に、学校生活の指導に取り組んでまいります。上柚木中学校が生活指導の際に大切にしていることをあらためてご説明いたします。

1. 事実ではなく真実を見る

本校では特別支援という言葉を使いません。その代わりに個別支援という言葉を使います。人は誰しも支援や手助けが必要であり、個々への支援は特別ではなく当たり前という考え方に則っています。生徒が抱えている課題は氷山の一角(=事実)のように水面から少ししか出ておらず、水面下にある残りの大きな塊(=真実)は見落としてしまいがちです。日頃の学校生活だけでなく、環境やその時々状況、家庭的なこと、背景をしっかりと見て指導をしています。具体的には集団で発言をすることが苦手(事実)な生徒がいた場合、保護者や生徒に状況やどこまでをゴールとするか確認をします。そこで少し時間を与えれば発言をすることができる(事実)ということがあれば、各教員で情報共有をし、発言をするまでの時間を与え、焦らずゆっくり発言をしてみようと声をかけます。生徒一人一人の事実だけではなく真実に目を向け、生徒の背中を押すことができるような指導を全教職員で足並みを揃えて、徹底していきます。

2. 保護者私たちもお子様ที่健やかに成長してほしいというゴールは同じ

意識をしていても、時には事実を見て指導をしてしまう場面もあるかと思います。そのようなことにならないために、私たちは何かあったときには、まず「どうしたの」と事実の確認を行います。その後「どうしたいの」と聞き、本人の今後についての意思を確認します。そして最後に「先生にできることはないか」と一緒に解決していこうという気持ちを示します。ぜひご家庭でも同じような流れで話を聞いてください。お子様が「〇〇先生から怒られた」「納得いかない」と家で話をしてもまずは受け止めていただいて、お子様と一緒に改善策を考えてください。教員として不適切な言動はしませんが、時には厳しく指導する場面もあります。しかし、「〇〇先生は嫌だね」「ありえないね」と一緒になって言うのではなく、お子様の成長を願い共に見守っていただきたいです。

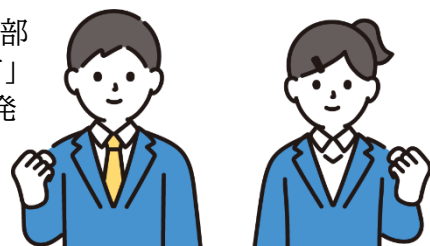
《学校生活の様子について》

全学年ともにほとんどの生徒がとてもよいスタートを切ることができました。

1年生はよい緊張感の中、授業を受けることができています。スピード感のある日々の生活に慣れようと努力をする姿にとっても関心をしました。メリハリのある行動ができています。学級目標も決まりそれぞれのクラスの特徴を出しながら、授業や様々な学級活動に精を出しています。

2年生は後輩ができ先輩としての自覚が高まりつつあります。部活動の仮入部では体験に来た1年生に「大丈夫？ 分からないことがあったらなんでも聞いて」と声をかけている姿を見かけました。また授業では様々な意見を出し合って活発な話し合い活動をしたり、一つでも多くのことを理解したりしようとする姿を多く見ることができました。

3年生は圧巻の一言です。集団としての規律、授業に向かう姿勢と最上級生として1年間頑張るぞという気持ちが多くの子から伝わってきます。授業



で分からないことがあればすぐに聞きにきたり、時間を意識して行動をしたり、自らが下級生のお手本となって行動ができています。これから様々な行事がある中でこの1か月の生徒たちの姿はとても素晴らしいものでした。ただ、少し疲れも出てくる頃ですので、心や体の変化が少しでもありましたら、学級担任や学年の教員にお知らせください。

《昨年度からの変更点について》

すでに Home&School で送信済みではありますが、あらためてお伝えします。昼食忘れの対応について、忘れた場合は保護者の方に持ってきてもらうことは変わりません。可能であれば対応をお願いします。今までは生徒へ乾パンを渡し、後日 100 円を持ってきてもらう形でしたが、今年度からはカロリーメイトを渡し、後日同じもの(同じ味)を返却という形に変更しました。アレルギー対応については生徒に成分表を確認させます。

《セーフティ教室について》

こちらもすでに Home&School で送信済みではありますが、5 月 9 日の金曜日にセーフティ教室を実施します。南大沢警察署員が来校し、闇バイトと不審者対応(護身術)について講演をしていただきます。時間は午後 2 時 25 分から午後 3 時 15 分まで。保護者の参加も可能ですので、ぜひ、ご参加ください。



昨年度多かった問い合わせや相談

お子様のご家庭での課題についての効果的な対応策を Q&A 方式で掲載します。

Q.時間の管理が全くできていません。何かよい方法はありませんか？

A.指示より「誘導」が効果的です。

〇〇時に勉強を始める、〇〇時にゲームをやめるなどルールを決めることは必要です。そこまではよいのですが、それでもなかなか時間を守れないときは、例えば 7 時だから勉強を始めなさいではなく、勉強を始めるまであと 30 分だねと予め伝えておくことで時間を守れるようになったということがあります。どうしても指示や命令になってしまうと子どもは反発しがちです。上手に誘導をすることが必要です。それでも勉強を始めないことはあると思います。そこで次に大切なことは「待つ」ことです。やはり保護者からの一言は重みが違います。必ず子どもに伝わっているのじつと我慢をすることです。それでも始めないのであれば、最後は「どうする?」と声をかけ、あくまで自分で決めたこととすれば、やらなければいけないと気持ちが生まれ、翌週には時間どおりに勉強を始めることができるようになりました。



Q.家で学校のことを話してくれませんか。どうすれば話すようになりますか？

A.①クローズドクエスチョンで会話する。②自分(保護者の方)の話をする。

思春期であれば自立したい気持ちも強くなるので、あまり話さなくなることは自然なことかもしれませんが、やはり学校での出来事は気になります。そこでオープンクエスチョン(回答が複数あるのも)ではなくクローズドクエスチョン(はい・いいえで答えられる)で話をするとよいです。「今日は何が楽しかった?」ではなく「今日の体育は何をしたの?」と聞く方が、聞かれている方は答えやすいです。また真正面に座ってというよりは少し横にいる方が話をしやすいこともあります。また、自分(保護者の方)の話をすることも効果的です。私が中学時代の頃は〇〇だった。部活動で〇〇のような失敗をしてよく怒られたと話をしたところ、「え、それ私と全く同じ」と会話が弾んだということもありました。「何した?」「勉強はついていけている?」「友達はできた?」と間髪入れずに話を聞いてしまうと子どもは壁を作りがちです。子どもにとって家が一番落ち着く場所なので、「お疲れ様」「今日も疲れたでしょ」と安心できる雰囲気づくりも大切となります。あくまで成功例を紹介という形で伝えました。

